<75年が過ぎて>

名誉団委員長　　杉原　正

（はじめに）

1947年（昭和22年）2月22日、霊南坂教会でボーイスカウト東京第4隊（現・東京港第1団）が育成会長（教会・主任牧師）小崎道雄、隊委員長（教会・日曜学校教師）佐脇大三、隊長（日系2世、ハワイでスカウト経験）今井襄二で発足して75年が過ぎ、今年新たな77年目の歩みが始まりました。

創立時に参加したスカウト達の多くが神様の元に旅立ち、発隊・草創期のこと、とくにチャーチ・スカウト（教会スカウト）について知る方が少なくなりましので、このことを中心に書き残すことにしました。

スカウト活動は異年令児によるグループ活動が基本であることから対象となる中学生については教会の日曜学校の中等科2年生になりました。また小学生については近隣の区立西桜小学校（スカウトとしての参加を許可）5年生として生育や環境の異なる2つのグループを合わせての少年達によって構成されました。

東京第4隊として発足し、東京第4団を経て現在は、東京港第1団と名称は変更されていますが、創設のときの共通な精神は変わっていません。

75年を超える歩みのなか、様々な出来事がありましたが、そのうち、お伝えしておきたい事柄を記載いたします。

（※　2月22日はスカウト運動の創始者ベーデン・パウエルご夫妻の誕生日でもあります。）

（教会のスカウトの誕生）

霊南坂教会にスカウトが結成された経緯について「霊南坂教会100年史」につぎのような記述があります。

「当時、小崎道雄は、日本基督教団議長を担いながら連合国軍総司令部（GHQ）の占領政策が日本の民主化を基調とし、わけてもキリスト教会に好意的であったことから次々と来日する宣教師たちと親交を深めていき、GHQとも関係を持っていた。

一方、京都、大阪においても新らしい「ちかい」と「おきて」の草案に関わった中野忠八、神戸の須磨で日本で初めてウルフ・カブを始めた古田誠一郎、後に大阪連盟の理事長となった今田忠兵衛、スカウト関係書籍の翻訳をした中村知らの熱望者が同地方駐留の GHQ のスタッフでアメリカの元ボーイスカウトである H.M.フェッターらと談合して相互理解を深め、再建気運を盛り上げていることが東京側にも通報されていました。

また、1945 年 11 月、戦前に日本のＹＭＣＡの主事を務めていた R.L. ダーギンが GHQ の顧問の一人として再来日した歓迎会を兼ねた講演会が神田の YMCA 講堂で行われました。

その折、内田（竹内）二郎（戦前の三島通陽団長の弥栄ボーイスカウト隊長）は、村山や鳴海らと会い、GHQ の中にはボーイスカウト関係者や 2 世スカウトがかなりいることが分かりました。三島に相談をし、1946 年 2 月に銀座・交詢社ビルで第 1 回ボーイスカウト・クラブの会合を開き、2 回目からは品川の森村学園（後に、指導者のラウンドテーブルなどの会場としても）で会合を続けます。

この会合には、日系 2 世や CIE のダーギン主任なども参加するようになりましたが、再建に関しては、戦前の少年団活動の一部が軍国的な動向であったことに難色を示していました。

しかし、関係者の熱意に促されて CIE は、①制服を着用しない。②スカウトサインのみで敬礼をしない。③号令をかけない。行進をしない。などの許可条件、更に、その中央組織が日本の「公法人」であるとの了解のもとに、正式な日本のボーイスカウト運動の再建を承認したのは 1947 年 12 月 4 日でした。

その結果。実験隊として東京で 5 ヶ隊、横浜で 1 ヶ隊を発足させることになり、東京第 4 隊（現東京港第 1 団）が霊南坂教会で GHQ のマーチン・ウィリアムズと通訳も務めていたハワイでボーイスカウトであった日系 2 世の今井襄二が、それぞれスポンサーと隊長を引き受けて 1947 年 2 月 22 日に発足しました。

（マーティン・B・ウイリアムズと今井襄二）

ボーイスカウト東京第 4 隊（現東京港第 1 団）の創設に関わった M・ウイリアムズと今井襄二、そして小崎道雄牧師については忘れるとのできないとても大切な人たちであります。

ウイリアムズと今井譲二のお二人は、霊南坂教会でのスカウト活動の創設に関わったのみでなく、日本のボーイスカウト運動の再建後の日本連盟での働きは、とても大きいものになっています。

M.ウイリアムズは、1946 年 4 月、GHQ の経済科学局の職員として 2 年の任期で来日しています。霊南坂教会でのスカウト活動の創設に深く関わり、その後

はスポンサーとして支え続けるなか、再建後のボーイスカウト運動を支援されています。「日本ボーイスカウト運動史」のなかで次のような紹介文が掲載されています。

「GHQの日本ボーイスカウト基金募集委員会委員長マーティン・B・ウイリアムズは、GHQの経済科学局職員としてわが国に着任すると直ちに、折から再発足したわが国ボーイスカウト運動の援助を申し出て、東京第4隊を今井襄二と共に結成し以来、激務のかたわら、日本連盟再建諮問委員として、あるいは財政援助者として尽力した人である。しかもボーイスカウトのために任期を延長すること3度に及んでおり、わが国のスカウト運動が再建の基礎を固め伸展の道をたどるようになったのは、ウイリアムズ委員長の献身によるところが大きい。ことに自ら率先して日本ボーイスカウト基金募集委員長となり、実に千数百万円を達成した功徳は特記しなければならない。1952年12月11日、帰国するウイリアムズに「名誉理事」の称号を贈ると共に、新たに制定した日本連盟最高功労章である「きじ章」第1号を贈呈した。

一方、今井襄二は、日系2世で、ハワイ州ホノルルでボーイスカウトの経験があり、太平洋戦争で帰国して、海軍の士官候補性となり、終戦後はGHQ関係の仕事でM.ウイリアムズと知り合い、通訳も務めながら東京第4隊を共に立ち上げ、自ら隊長としてスカウトの指導にあたります。

スカウト活動には厳しく、B-Pに習って（中産階級と労働者の子弟を混合して実験キャンプを行う）。生育環境の異なる少年たち（霊南坂教会の日曜学校の生徒と公立小学校の児童を混成して隊を作り上げる）で霊南坂スカウトを創立した意義は大きいと思います。

隊長の期間は短く、1948年7月、戦後のスカウト運動の基本原則などの協議のため初めて開かれた臨時地方理事総会に、今井は事務局指導主事として参画しています。その後は指導主事として開設される公認指導者講習会など指導者養成のため講師として全国各地に出向いています。

1949年の秋に、指導主事としてアメリカ・スカウト連盟の専従指導者養成コースのある大学に留学し、その間1950年6月に開催された第2回全米ジャンボリーに日本代表として参加しています。

期間中の7月1日にボーイスカウト日本連盟の国際事務局への復帰が認められ、記念して今井の手により国旗（日の丸）が戦後初めて外国の空にあがったことが記事として残っています。

（おわりに）

四季折おり、移り行く自然のなか、日本では中国伝来の陰暦の季節区分の「二十四節」があります。5月5日は「立夏」ですが、現在は“子どもの日”が一般的な節目の祝い方になりましたが、その折おりの装いを新たにしています。

今年、霊南坂教会でボーイスカウト活動が始まって75年、ボーイスカウト日本連盟の前身である「少年団日本連盟」が組織されて100年の節目、「ジュビリーの年」を迎えました。

人の歩みも、組織や団体の歴史のなかにあっても、それぞれの節目のとき、感謝して祝い、また新たな出発の機会としています。

日本には、数多くの青少年教育や育成に関わる団体がありますが「学校」に喩えれば、青少年団体は、「私立学校」といえると思います。私立学校が、私立学校と胸を張って、またその根拠となるのは、創設者たちの「建学の精神」であります。

私立学校が建学の精神を喪失したときは、その私立学校の存在意義は無くなると考えます。

「先ず神の愛、ありき」創始者B-Pのキリスト教精神に基づいたスカウト運動、そして共鳴し、支えた草創期の先人たちの想い、をいま私たちは、どのように継承し、真摯に受け継ぐ覚悟を新たにするときではないでしょうか。

人の歩みも、組織や団体の歴史も長い階段をのぼり続けることが大事であり、長い階段には途中でひと休みする「踊り場」が設けられています。今その節目の踊り場に私たちはいます。この「踊り場」でしばし佇み、来し方を顧み、行く末を見つめるよい機会です。

コロナ禍の続く試練とのき、来た道をしっかりと顧みることとは、この階段の下から後に続くスカウトたちがのぼって来て居ることを決して忘れてはならないからです。併せて行く先を見定めて正しく導いていくことの責任を感じなければなりません。

B-Pが終焉の地、ケニヤのニエリで、ケニヤ山が自分にこう語り掛けているといった言葉“視野をより広く、より高く、より遠く、前を見なさい。そうすれば道が開かれるでしょう。”を読み解きましょう。

また、霊南坂教会でのスカウトの生みの親といわれる小崎道雄牧師が口癖であった、「さあ、みんなで一緒にやりましょう」の言葉が思いだされます。

このジュビリーのとき、“さあ、みんなで一緒にやりましょう”

2022年5月6日

（ボーイスカウト日本連盟顧問・先達）

(参考書籍)

「少年団の歴史　-戦前のボーイスカウト・学校少年団-
上平泰博・田中治彦・中島純　萌文社
「ボーイスカウト」　-20 世紀青少年運動の原型-
田中治彦　中央公論社
「占領下の東京」　佐藤洋一　河出書房新社
「ボーイスカウトが目指すもの
- An official history of scouting -
イギリス・スカウト連盟編　山と渓谷社
「日本ボーイスカウト運動史」(I)、(II)
ボーイスカウト日本連盟
「日本ボーイスカウト東京連盟運動史」(I)、(II)
ボーイスカウト東京連盟
「霊南坂教会 100 年史」　霊南坂教会